

研究所だより

第4号



= 安芸市小中学校工芸展 作品 =

～目次～

研究協力校 中間報告	
(1)川北小学校	1
(2)穴内小学校	3
(3)井ノ口小学校	7
(4)土居小学校	9
教育支援センター	11
こころこころ(ふれあい教室SCだより)	12

研究協力校 中間報告 【川北小学校】

1. 研究テーマ

だれもが生き生きと活躍できる集団の育成と授業づくり
～互いに認め合い、学び合うことができる授業を通して～

2. 研究内容

夢プロ部	学習部
<p>○3つの“たい”を大切にしながら、主題であるだれもが生き生きと活躍できる集団の育成</p> <p>1) 学級活動(1)の研究</p> <p>ア 学級会【川北スタンダード】の普及</p> <p>イ 5つの“や”の成果物のコンパクト化</p> <p>2) 持続可能な特別活動の在り方</p> <p>ア 異学年交流の活性化</p> <p>イ 委員会活動</p> <p>ウ 学校行事の活性化</p> <p>エ 朝の集会</p>	<p>○お互いを認め合い、学び合う授業づくりを進め、児童の学力向上を図る。</p> <p>1) 授業改善の取組</p> <p>ア 授業スタンダードの確立</p> <p>イ 校内授業研の取組</p> <p>2) 基礎学力の向上</p> <p>ア ステップアップタイム</p> <p>イ ぐんぐん教室</p> <p>ウ MIM</p> <p>エ 漢字テスト</p> <p>オ 家庭学習への働きかけ</p> <p>カ 自主学習ノートコンテスト</p> <p>3) 各種学力調査分析</p>

3. 研究経過

1) 学習部

(1学期)

5月31日(水) 全国学調分析共有・共通取組確認

6月20日(火) 算数科授業研究会2年「100より大きい数をしらべよう」
※算数・数学科スーパーバイザー派遣事業矢部先生ご指導

7月5日(水) 算数科授業研究会3年「あまりのあるわり算」
※東部教育事務所上村指導主事招聘

(2学期)

9月1日(金) 安芸市版学調分析結果共有・2学期の取組確認

10月24日(火) 算数科授業研究会4年「計算のやくそくを調べよう」
※算数・数学科スーパーバイザー派遣事業矢部先生ご指導

11月29日(水) 算数科授業研究会5年「整数の性質を調べよう」
※東部教育事務所上村指導主事招聘

2) 夢プロ部

(1学期)

4月24日(月) 学級会活動授業公開6年「全校が楽しいと思える春の遠足にしよう」

7月25日(火) 教職員学級会「運動会成功に向けて」

8月23日(水) 教職員特別活動「一致団結パーティー」※5つの“や”成果物制作

4. 具体的取組

【学習部】

1) 授業改善への取組

①算数科授業研

本年度より軸足を、教科研究に移す形で研究を行っている。これまでに、算数科4本の授業研を行った。すべての授業で東部教育事務所上村指導主事に指導案検討からご指導いただき、4本のうち2本については、算数・数学科スーパーバイザーの鳥取大学矢部敏昭名誉教授にご助言とご教示をいただいた。



いずれの授業においてもその単元で身につける「見方・考え方」本時における「見方・考え方」、「協議の視点」を明確にして「評価規準」が達成できているかに着目しながら授業を分析し、根拠を学習指導要領に求める作業を繰り返すことで実のある授業研究会となった。

②基礎学力の向上

学力調査の分析を授業改善に生かすために、ポイントを絞った分析方法をとった。「ベスト1問題」「ワースト1, 2, 3, 問題」を決め、出題の趣旨、該当学年、学習指導要領の内容を確認したうえで各個人の解答を確認し、要因分析・考察につなげていった。

そして、分析を行った後には、共通理解の時間を確保し、全体で取り組む「共通取組」を明確にし、各学年で重点的に取り組むことを確認した。それを学期ごとに振り返る場を設け、全員が常に意識して取り組めるようにした。また、個人での振り返りも大切にするために「共通取組振り返りシート」「授業力チェックシート」を実施し、全体の授業力向上の指標としている。

また、共通取組も全国版、安芸市版と分析を進めるたびにブラッシュアップして加筆訂正している。

帯タイムや放課後加力のやり方も、逐次見直して改善を加えながら取り組みを充実させている。

【夢プロ部】

夢プロ部では、今まで培ってきた特別活動の取り組みを大切にしつつ、持続可能な取り組みの構築に向けて取り組みを進めている。

縦割り班活動や児童の「やりたい」を大切にしたい取組を可能な限り残すとともに、今まで行ってきた成果物等の作成にかかる労力を少しずつ軽減している。

委員会活動や仲良し集会、集会の充実の取組は引き続き残し、学級会活動もメンバーが入れ替わる中で継承していくために授業公開や研修を実施している。

夏季休業中には、「運動会の成功に向けて」の話し合いを教員が学級会活動の形式で進めていき、話し合いの手順や学級会活動で留意すべきことを共通認識できた。

また、夏季休業中には「一致団結パーティーをしよう」という議題に沿った話し合いをして、教職員相互の親睦を図るためのパーティーをどう作っていくかの話し合いをし、話し合ったことを実現するまでの過程を全員が実際に体験することができた。そして、その取り組みを「5つの“や”」の成果物として残し、成果物の例として職員室に掲示している。

5. 成果と課題

本年度は、本校の大きな課題である学力の向上に向けて、今までの特別活動で得られた成果を土台に授業研究・基礎学力の向上に大きく舵を切った年である。これまでの取組を振り返ってみると、学習部、夢プロ部ともにそれぞれの研究内容を充実させるために着実に歩みを進めていると感じている。これは、職員集団が一つの方向に向かってベクトルを合わせ、協力できる体制づくりができているからであると感じている。これからも、チーム川北で研究を進めていきたいと考えている。

研究協力校 中間報告 【穴内小学校】

研究主題

「確かな学びの定着を図る
～自ら学ぶ力を育む、少人数・複式学級における学習指導のあり方～」

『複式・算数科における授業改善に向けた、本年度新たな取組』

①目指す児童の姿

○自分の考えをもち、根拠をもとに自分の言葉で説明する児童

②主体的・対話的な学習に取り組める児童

○児童同士の学び合う時間を大切にするために

複式授業の「わたり」「直接指導」重視～間接指導へ

1 研究内容

4月以降に実施した主な校内研修、授業研究は以下のようになる。また、記載以外に水曜日以外の取れる放課後の時間（60分程度）に指導案検討や授業スタンダードの確認を行ってきた。

日	主な取り組み（研究・研修内容等）
4/6	授業づくり講座の趣旨説明、授業公開学年、単元決定（東部教育事務所指導主事）
5/1	方向性の確認及び組織的な体制づくりの共有（東部教育事務所指導主事）
5/10	3・4年生教材研究①（東部教育事務所指導主事）
5/22	3・4年生教材研究②
5/29	1・2年生指導案検討（1年…あわせていくつふえるといくつ、2年…3けたの数）
5/31	3・4年生教材研究③（東部教育事務所指導主事）
6/8	1・2年生教材研究（東部教育事務所指導主事）
6/27	3・4年生教材研究④（東部教育事務所指導主事）
6/28	1・2年生授業研究（東部教育事務所指導主事）
7/13	3・4年生教材研究⑤（東部教育事務所指導主事）
7/28	「授業づくり講座・教材研究」に向けた最終確認
7/31	「授業づくり講座・教材研究」実施 (講師：中部教育事務所 教科研究センター：片岡さえアドバイザー)
8/22	6年生教材研究：円の面積（東部教育事務所指導主事）
10/5	6年生研究授業（東部教育事務所指導主事）
10/18	東部教育事務所指導主事来校による3・4年生算数科授業参観
10/24	6年生授業参観（東部教育事務所指導主事）
10/27	「授業づくり講座・授業研究会」最終確認
10/30	「授業づくり講座・授業研究会」実施
11/17	自立活動校内研修（東部教育事務所指導主事）

2 研究経過

(1) 教材研究会（一部抜粋）

①授業改善の方向性

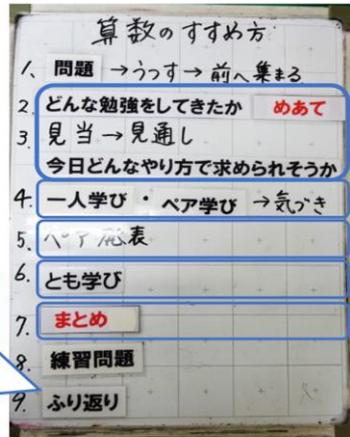
目指す児童の姿に迫るために、次の3つを柱とした授業づくりに取り組むこととした。

- ・ 児童が主体的に学び合える複式の授業にすること
- ・ 効果的な ICT の活用方法を探ること
- ・ 数学的な見方・考え方を働かせながら豊かで確かな算数科の力をつけること

授業の流れ

- ・ 黒板にはキーワードを掲示
- ・ 学習のヒントになる
- ・ 学習の大幅なずれを防ぐ

- ・ 友達の見方から学んだこと、感じたこと
- ・ 今日の勉強で大切だと思うこと
- ・ 次の勉強で解決したい疑問
- ・ 難しかったところ



②学力調査の結果（図形領域より）

・ 平均から大きく下回る領域はないが、全校的に「図形領域」に課題がみられる。基本的な図形の意味や性質については理解しているが、図形を構成する要素などに着目し、理解したものを活用する力に弱さがあると考えられる。日常の学習からも、図形をイメージする力、イメージしたことを適切な算数用語を用いて説明する力の不足が見受けられる。

③学校提案

単元のゴールの姿として、3年生は「身の周りにある図形に関心を持ち調べたり、それらを構成する要素に着目し、根拠をもって伝え合おうとする姿」と設定した。自分の意見をただ伝えることで満足するのではなく、他者の考えを聞いて、考えを広げたり、深めたりし合っしてほしいという思いを込めて設定した。一方、4学年は、「面積の大きさを数値化して表すことの良さに気づき、効率的、能率的な求め方を考え、根拠をもとに伝えあい、生活や学習に活用しようとする姿」と設定した。自分の考えを既習事項や気づきを活用しながら説明し合う中で論理的につたえる力を身に付け、自分たちで豊かで深い学びができる姿を目指している。

第3学年「三角形と角」の本時では、「既習の円を用いて、二等辺三角形や正三角形を作図し、なぜその方法でかけるのか」ということを考える学習となる。見当の段階で作図の方法を実際に示し、全員が作図することができるように、スタートラインを揃えることに気を付けて一人学びに入らせ、

気づいたことを自分の言葉で説明する時間を大切にしたいと考えている。本時のキーワードとしては、「円」「半径」「三角形」という言葉を準備しておき、円の半径に着目させたいと考えている。

また、第4学年「広さの表し方」では、「L字型の複合図形の面積の求め方を考える」学習となるため、本時では、多様な考え方を引き出し、それを説明できるようにしたいと考えている。多様な考え方でも「既習の長方形をもとにして考える」ことが共通していることに気づかせ、統合的に考えることを価値づけながら学び合わせたいと考えている。

④協議内容

(3年生)

- ・キーワードが多い。検討をたてるときに、文章をつくるときに子どもたちだけだと時間がかかる。
- ・ペア学びからとも学びへの移動の仕方。(英語のときのようなレベルアップするような)算数用語を使ってみよう。みたいな声掛けが必要ではないだろうか。
- キーワードは少なくする。「円、半径、三角形」だけ。
- ワークシートも問題数を増やす。達成感をもたせるとしたら数を減らして取りに行く、のほうが視覚的支援で厳しい子にはそのほうが良いのでは。説明を書くスペースがあってもよいかも。
- ペアからとも学びへの間にTの声掛けを準備しておく。「キーワード使って説明ができていたね。」など。
- ・めあてと検討を入れ替えたほうが良いのでは。めあてと検討を入れ替えると思考の流れがあるのでは。いろんな三角形を書いたあとに「どんな三角形を書いているかな。」ひとり学びの間に気づきをもつことはまだできていない。ワークシートが最初にあれば書き方はわかる。子どもたちに書き方を考える流れがわかるようになってもいい。一人に書かしてみる。修正をかけてから書き方をもどす。
- キーワードと円と球で子どもたちが学習のときに頭の中で学習できているか、円の何を使って。「円の特徴を使って。」など。キーワード(半径)って…半径おなじか!三角形ができているときに丸つけをしていけばどうか。

◆「めあて」について

～円の半径を使ってどんな三角形が～。

ひとり学びの中で気づきをもたすことを習慣づけておく。

- ・正三角形を書いた子がいた場合、他の子も正三角形を作ったほうが良いのでは。正三角形の書き方を教えさせて書かす。モニターに映して子どもに説明させる。他の児童に書かせる。
- ・正三角形を書いた、のまとめまで出ればよい。「円を使ってかくと、二等辺三角形を書くことができる。」円を使うと半径の長さは同じなので、二等辺三角形を書くことができる。特徴=長さが同じ。キーワードを使ってめあてやまとめを作るということを仕組めていけば、文章がつながるようにまとめを書けばいい。
- キーワードは「二等辺三角形」「正三角形」はなし。もし、まとめに言葉を書いた児童がいた場合には「キーワードにないのに、よくまとめで言葉をつかえたね」と評価できる。
- ・見とれなかった場合、ふりかえりでどんな言葉が、机間巡視をしたときにそういう言葉に丸つけをしておく。とも学びのときに、そのキーワードを使うのでは。

◇「とも学び」について

・みんな前に集まって書く。黒板よりもICTで残したほうがよい。とも学びの足跡がTにわかるようにしたほうがよい。スマイルノートに書いたノートを撮影して説明させる？説明する時間をわかることよりも大事にした方がよいのでは。

・ペア学びでも話をするが、とも学びでどこまで発言をさせるか。(ペアの代表者?) 同じことは言わない。意見が違ふときは言う。円のプリントは2つくらいにしては?

→タブレットで考えを書かせてスマイルノートで共有する。

★「まとめ」について

・自分の言葉でまとめをする時間。リード文+キーワードを書かせて考察。それをもとにまとめることができる。

☆ふりかえり…学び方について書かせる。練習問題は少なくする。

(2) 授業研究会に向けて

・教材研究会(研究協議)で得た意見をもとに、授業改善に向けた確認事項を下記の通りとした。

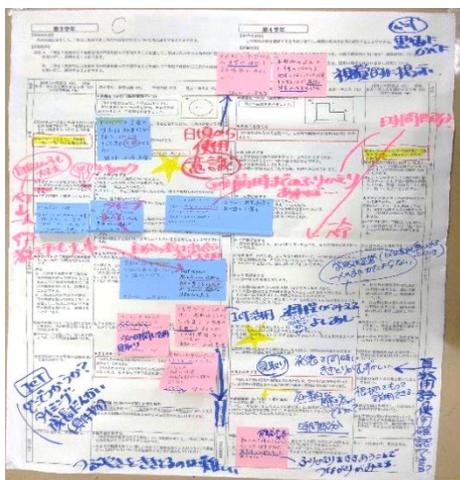
→「ずらし」「わたり」については、間接指導を中心とした学習を通して、児童の主体的・対話的な学びを生まれるように、「見取り」や「ポイント」を抑えながら、教師主導型ではなく、必要時に指導に入る授業展開にチャレンジしている。

→「児童のつまずきを見取れるように」については、つまずきを予想することは難しいことではあるが、ポイントとなる学習に直接指導に入ったり、ICTでの学習において児童の考えが把握できるようにする工夫が必要である。

→「キーワード」の扱いについて、児童のひらめきや考えを導き出し、学習の支援に繋がる言葉を使っている。児童が本時の学習からそれないように、自分たちで進めていけるように提示している。

キーワードがヒントになりすぎて、児童の学ぶ楽しさを奪わないように、最初から全て出しておくのではなく、学習の中で児童が学びに必要なキーワードが見つけれられるように、まとめで算数用語を用いて、根拠をもとに説明できるように考えている。

【教材研究会の協議の様子】



研究協力校 中間報告 【井ノ口小学校】

研究主題

「豊かな表現力の育成と主体的な学びの実現」

研究主題達成に向けての2学期の取組

(1) 楽しい学級・学校づくり

①縦割り班活動

- ・ 運動会縦割り班競技
- ・ 健康まつり
- ・ ハロウィンかくれんぼ
- ・ 後期縦割り班編成



②Q-U アンケート2回目

③学級活動(3)「運動会スローガンづくり」

- ・ 運営委員会から児童へ呼びかけ
- ・ 学級会で話し合い
- ・ 代表委員会で決定
- ・ スローガンを達成するために学級で話し合い
- ・ 運動会后振り返り



④学校生活アンケート2回目

- ・ 必要に応じて聞き取りを行う
- ・ 職員会で共有

(2) ユニバーサルデザインに基づく授業づくり (マンダラチャートの見直し)

①読む力の育成

- ・ 単元計画を示し見通しをもたせる
- ・ 言葉の力を導入で示し見通しをもたせる
- ・ 各単元で言語活動を取り入れる
- ・ 教科書以外の身近な資料を読み取らせる
- ・ 国語、社会、総合など複数の教科の資料を読み比べさせる

②児童理解

- ・ 職員会での児童理解
- ・ 中尾繁樹先生講演会 (市教研講演会)
- ・ 校内支援会
- ・ 支援ミーティング

③ 5年生理科授業研究

- ・教材研究会
導入・展開・終末について、自分の案を事前に考えておき、グループ協議を行う。
- ・授業研究会
(講師：清水ヶ丘中学校主幹教諭 中平晋輔先生)
- ・事後研

- ・授業者より(授業を終えて)
- ・参観者から→全体共有(成果と課題)
- ・講師より
- ・明日からの授業にどう活かしていくか
(授業者・参観者)
- ・校長より



④ 各種学力調査(自校採点・分析・取組)

- ・1～3、6年安芸市版学力調査
- ・4、5年高知県学力定着状況調査

(3) その他

① 家庭学習(アンケート・分析)

- ・予習型の宿題
- ・習熟確認の宿題

② 自主学習

- ・学習内容や振り返りを他学年に見てもらう場の設定(ノート展)
- ・友だちの良かったところを付箋に書き、交流

③ 発表交流(異学年)

④ 単元テスト

⑤ ICT(1人1台タブレット)活用

- ・ICTスキルアップ研修や東部教志塾で授業への活用について研修
- ・児童が考えをまとめ、ジャムボードを使って、発表・表現する場面を設定
- ・静止画や動画を撮影したものを授業で活用(体育・理科)
- ・毎日の持ち帰り
(宿題、次の日の予定をタブレットで確認)
- ・県タイピング選手権への参加(4～6年生)



研究協力校 中間報告 【井ノ口小学校】

研究主題

「豊かな表現力の育成と主体的な学びの実現」

研究主題達成に向けての2学期の取組

(1) 楽しい学級・学校づくり

①縦割り班活動

- ・ 運動会縦割り班競技
- ・ 健康まつり
- ・ ハロウィンかくれんぼ
- ・ 後期縦割り班編成



②Q-U アンケート 2 回目

③学級活動(3)「運動会スローガンづくり」

- ・ 運営委員会から児童へ呼びかけ
- ・ 学級会で話し合い
- ・ 代表委員会で決定
- ・ スローガンを達成するために学級で話し合い
- ・ 運動会后振り返り



④学校生活アンケート 2 回目

- ・ 必要に応じて聞き取りを行う
- ・ 職員会で共有

(2) ユニバーサルデザインに基づく授業づくり (マンダラチャートの見直し)

①読む力の育成

- ・ 単元計画を示し見通しをもたせる
- ・ 言葉の力を導入で示し見通しをもたせる
- ・ 各単元で言語活動を取り入れる
- ・ 教科書以外の身近な資料を読み取らせる
- ・ 国語、社会、総合など複数の教科の資料を読み比べさせる

②児童理解

- ・ 職員会での児童理解
- ・ 中尾繁樹先生講演会 (市教研講演会)
- ・ 校内支援会
- ・ 支援ミーティング

③ 5年生理科授業研究

- ・教材研究会
導入・展開・終末について、自分の案を事前に考えておき、グループ協議を行う。
- ・授業研究会
(講師：清水ヶ丘中学校主幹教諭 中平晋輔先生)
- ・事後研

- ・授業者より(授業を終えて)
- ・参観者から→全体共有(成果と課題)
- ・講師より
- ・明日からの授業にどう活かしていくか(授業者・参観者)
- ・校長より



④ 各種学力調査(自校採点・分析・取組)

- ・1～3、6年安芸市版学力調査
- ・4、5年高知県学力定着状況調査

(3) その他

① 家庭学習(アンケート・分析)

- ・予習型の宿題
- ・習熟確認の宿題

② 自主学習

- ・学習内容や振り返りを他学年に見てもらう場の設定(ノート展)
- ・友だちの良かったところを付箋に書き、交流

③ 発表交流(異学年)

④ 単元テスト

⑤ ICT(1人1台タブレット)活用

- ・ICTスキルアップ研修や東部教志塾で授業への活用について研修
- ・児童が考えをまとめ、ジャムボードを使って、発表・表現する場面を設定
- ・静止画や動画を撮影したものを授業で活用(体育・理科)
- ・毎日の持ち帰り(宿題、次の日の予定をタブレットで確認)
- ・県タイピング選手権への参加(4～6年生)



研究協力校 中間報告 【井ノ口小学校】

研究主題 「豊かな表現力の育成と主体的な学びの実現」

研究主題達成に向けての2学期の取組

(1) 楽しい学級・学校づくり

①縦割り班活動

- ・ 運動会縦割り班競技
- ・ 健康まつり
- ・ ハロウィンかくれんぼ
- ・ 後期縦割り班編成



②Q-U アンケート 2 回目

③学級活動(3)「運動会スローガンづくり」

- ・ 運営委員会から児童へ呼びかけ
- ・ 学級会で話し合い
- ・ 代表委員会で決定
- ・ スローガンを達成するために学級で話し合い
- ・ 運動会后振り返り



④学校生活アンケート 2 回目

- ・ 必要に応じて聞き取りを行う
- ・ 職員会で共有

(2) ユニバーサルデザインに基づく授業づくり (マンダラチャートの見直し)

①読む力の育成

- ・ 単元計画を示し見通しをもたせる
- ・ 言葉の力を導入で示し見通しをもたせる
- ・ 各単元で言語活動を取り入れる
- ・ 教科書以外の身近な資料を読み取らせる
- ・ 国語、社会、総合など複数の教科の資料を読み比べさせる

②児童理解

- ・ 職員会での児童理解
- ・ 中尾繁樹先生講演会 (市教研講演会)
- ・ 校内支援会
- ・ 支援ミーティング

③ 5年生理科授業研究

- ・教材研究会
導入・展開・終末について、自分の案を事前に考えておき、グループ協議を行う。
- ・授業研究会
(講師：清水ヶ丘中学校主幹教諭 中平晋輔先生)
- ・事後研

- ・授業者より(授業を終えて)
- ・参観者から→全体共有(成果と課題)
- ・講師より
- ・明日からの授業にどう活かしていくか(授業者・参観者)
- ・校長より



④ 各種学力調査(自校採点・分析・取組)

- ・1～3、6年安芸市版学力調査
- ・4、5年高知県学力定着状況調査

(3) その他

① 家庭学習(アンケート・分析)

- ・予習型の宿題
- ・習熟確認の宿題

② 自主学習

- ・学習内容や振り返りを他学年に見てもらう場の設定(ノート展)
- ・友だちの良かったところを付箋に書き、交流

③ 発表交流(異学年)

④ 単元テスト

⑤ ICT(1人1台タブレット)活用

- ・ICTスキルアップ研修や東部教志塾で授業への活用について研修
- ・児童が考えをまとめ、ジャムボードを使って、発表・表現する場面を設定
- ・静止画や動画を撮影したものを授業で活用(体育・理科)
- ・毎日の持ち帰り
(宿題、次の日の予定をタブレットで確認)
- ・県タイピング選手権への参加(4～6年生)



研究協力校 中間報告 【土居小学校】

研究主題

「自分から考え、生き生きと表現する児童の育成～友達とのかかわりを通して～」

1 研究内容

2学期以降は、以下のような授業研究・校内研修を中心とした実践研究を推進してきた。

日	主な取り組み（研究・研修内容等）
7/31	Q-Uの結果分析と2学期以降の学級経営についての校内研修 講師：高知大学教育学部 福住紀明准教授
8/2	校内支援会サポート事業「子どもの言動の背景を考える～不登校理解とその対応～」 講師：高知県心の教育センター 岡村涼子チーフ
8/3	書く指導「かかわりを通して学びを深める授業づくり」 高知大学教育学部附属小学校 田中元康先生
8/4	学力調査分析&2学期からの授業改善について（研究主任）
8/30	通級指導教室の役割と指導の実際について 安芸市教育委員会
9/20	特別活動研究授業②（2年生）「学級活動（2）」 講師：高知県人権教育・児童生徒課 原田英明指導主事
10/17	校内支援会サポート事業 講師 高知県心の教育センター
10/25	特別活動研究授業③（3年生）「学級活動（2）」 講師：高知県人権教育・児童生徒課 増田貴久指導主事
10/27	未来を創る小学校授業づくり推進ティーチャー育成事業（5年生）算数科 東部教育事務所
11/7	算数科研究授業②（4年生） 講師：高知市教育委員会 藤田 究 学力向上SV
11/14	校内支援会サポート事業 講師：高知県心の教育センター
12/5	特別支援教育 校内研修② 講師：高知大学 是永かな子教授
1/31	R6年度に向けて「各教科・領域、教育課程等」見直し

2 研究経過（夏季休業中以降の研究経過を報告）

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

①9/20（水）第2学年 学級活動(2)「めざせ、ふわふわ名人！」

講師 高知県人権教育・児童生徒課 原田英明指導主事



- ・誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策が必要。
- ・年間指導計画も子どもの実態や発達の段階に即した系統的なものになっているかバージョンアップが必要。
- ・役割演技のリアル感が弱かったため、十分自分ごととできていなかった。

②10/25 (水) 第3学年 学級活動(2)「楽しい給食」

講師 高知県人権教育・児童生徒課 増井貴久指導主事



・すでに、自分のめあてをもっている児童もいたので、「見つける」でより深まりのあるめあてを決められたらよかった。
 ・すでに給食を十分食べることができている児童にとっても意味のある時間にするためにはどういう手立てが必要だったのか。

③11/7 (火) 第4学年 算数科 「分数をくわしく調べよう」(数と計算)

講師 高知市学力向上推進員 藤田 究 SV



・見通しの際にどのように数直線を活用したら良いのか、全体で確認すると良かった。
 ・「同値分数」と「異分母分数の大きさ比べ」のどちらかを焦点化したねらいに絞ると良かったのではないかと。
 ・必要感をもって、数直線を使おうとする授業の在り方について提案できた。

④8/4 (金) 学力調査分析&2 学期からの授業改善について

- ・学力テストの分析をすることで、本校の重点課題を明らかにし、全教職員で取り組み・手立てを統一していき、今後の授業改善に努める。

- ・自分の考えをもたせる。(自力解決の習慣化)(個人思考の時間を確保)
- ・授業の中で自分の書く時間の充実。(自力・振り返り等)
- ・言語活動(アウトプット)する機会の充実。



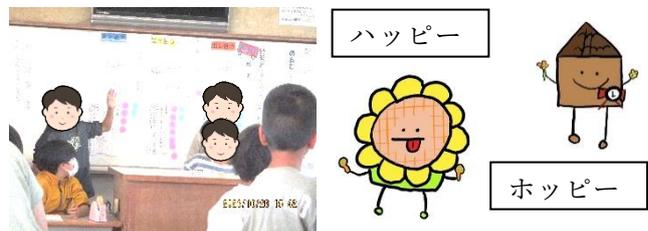
(2) 児童の自主的・実践的な活動となる特別活動の推進

①全校縦割り班りレー

- ・縦割り班のメンバーとの仲を深める。



②土居小学校キャラクターづくり



(3) 個に応じた指導・支援力の向上を目指した発達支持的生徒指導(特別支援教育)の充実

①12/5 (火) 特別支援教育 校内研修②

講師 高知大学 是永かな子教授

- ・各学級の配慮が必要な児童について、1回目に学んだ指導・支援方法を実践し、振り返り・検証をして、今回さらにアドバイスしていただきたい内容に絞って研修を受けた。

②10/17(火)11/14(火) 校内支援会サポート事業 講師 高知県心の教育センター

- ・不登校(傾向)児童、保護者への対応について1学期に引き続いて指導・助言を受けた。

ふれあい教室

3 学期スタート!!



2024年がスタートし、ふれあい教室始業式が行われました。始業式に先立ち、1月1日に能登半島で発生した大地震で亡くなられた方への黙とうを行いました。その後、安養寺所長と、参加していただいた2名の校長先生の話の話を聞きました。一生懸命話を聞いていた子どもたちは、締めくくりの3学期をしっかりと過ごそうと気持ちを新たにしているようでした。

今年度も、「ふれあい教室」が、子ども達の心の居場所となるよう、安心して過ごせる環境づくりを行っていきたいと思います。ふれあい教室の活動へのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



ポンカン狩り

1月18日(木)に西山台地の岡村さん(昨年度もお世話になりました)のポンカン畑に収穫に行ってきました。到着すると、挨拶をし、さっそくみんなで作業を始め、約1時間ポンカン狩りをしました。脚立を使ったり木に登ったりして、たくさん採ってました。気が付くと、コンテナ15個分はありました!!子どもたちは、お家へのお土産に袋いっぱい持って帰りました。



こころこころこころ

スクールカウンセラー通信

竹口 佳昭

宝物を見つけよう！！！！

皆さんは、自分の長所を知っていますか。入試や就職試験の面接でもたずねられることがあります。人は誰でも長所を持っています。それも一つや二つではありません。ないという人も、きっと自分では気づいていないだけで、実はたくさんの長所を持っているはずですよ。

P&G を退職して、USJ や丸亀製麺などの企業業績を飛躍的に成長させたマーケターの森岡毅さんは、次のように述べています。

成功は必ず人の強みによって生み出されるものだ。その成功を生み出す強みこそが『宝物』だ。その『宝物』はすべての人が持っている。すべての特徴は『宝物』になりえるし、全く特徴のないのも極めてレアな特徴である。



同じ特徴が『宝物』になるか、弱点になるかを決めているのは、文脈である。『空気を読めない』と言われる人の特徴が、別の文脈では、『場に流されず、自己主張がしっかりできる』という『宝物』になる。だから、自分のすべてを一度肯定して、凹凸の際立っている凸を探すことが大切である。

『宝物』の発見方法は？

『宝物』ってなかなか見つからないから『宝物』なのだ。でも、それを自分で見つける方法がある。

『好きなことをしている時』『生き生きとしている時』『充実している時』『活動の中で魅力を感じている時』などの自分の様子を書き出す。例えば、『誕生日会の司会をして、みんなに楽しんでもらったことが嬉しかった』『部活のサッカーの試合の作戦を練って、その試合をいい勝負までもっていくことができたことが嬉しかった』『文化祭でみんなの前で歌ってみんなが喜んでくれたことが嬉しかった』などだ。



ちなみに書いていくと、だんだん似通ったものになるし、重複していくこともある。それは全然かまわない。50個ぐらい見つけることができるといい。そうすれば、自分の特徴が見えてくる。その特徴に関係していることをするのは、苦にはならないはずだ。それを極めればいいのだ。それは誰にでもできる。ただ、体を動かすことが好きなのか、戦略を立てることが好きなのか、研究することが好きなのか、人を喜ばせることが好きなのか、そこを見極めることが必要だ。

今年度も終わりに近づいています。じっくり、今までの自分を振り返ることで、これからの未来の自分の姿を想像しましょう。そうすると、自分が今、何をすべきかに気づけるように思います。将来、自分の興味のあることや、好きなことをし続けることができれば、人生、楽しいのではないのでしょうか。もちろん、好きなことや得意なことは変わっていてもいいのです。

さあ、自分の『宝物』を探しませんか。

引用・参考図書 「苦しかったときの話をしようか」 森岡毅著 ダイアモンド社



安芸市教育研究所

〒784-8501
安芸市土居82番地1
TEL (0887) 32-0232
FAX (0887) 35-1051
E-mail : aki-l@city.aki.lg.jp



安芸市出身 三原グループの創始者 岩崎弥太郎